

公共用水域水質測定結果の概要

1 環境基準等達成状況

(1) 健康項目

人の健康の保護に関する環境基準が設定されている項目（カドミウム、全シアン等の27項目）については、「硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素」が忍川及び高田川で環境基準を超過したが、その他の項目については、いずれの地点においても環境基準を達成している。（表1、図1）

硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の環境基準を超過した忍川及び高田川は、源流部及び湧水の硝酸性窒素濃度が高いことが判明しており、畜産及び畑作による影響が考えられることから、畜産農家への家畜排せつ物の適正管理に係る指導や畑作農家への適正施肥の推進及び環境にやさしい農業の推進について、生活排水対策を含め、引き続き関係機関と連携して対策を進めていく。

表1 健康項目の環境基準超過状況 (単位：mg/L)

物質名	河川名	地点名（市町村名）	年平均値	環境基準値
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	忍川	富川地先（銚子市）	16	10以下
	高田川	白石取水場（銚子市）	13	

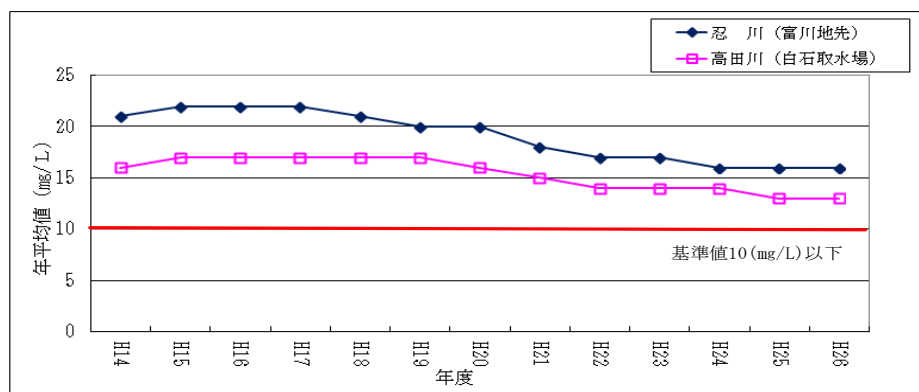


図1 忍川及び高田川の硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の経年変化

(2) 生活環境項目

ア BOD（河川）又はCOD（湖沼及び海域）

環境基準が設定されている85水域のうち60水域で達成しており、達成率は70.6%で、前年度より1.2%低下した。

河川、湖沼、海域の達成率は、河川で78.6%（前年度80.0%）、湖沼で0%（同0%）、海域で45.5%（同45.5%）となった。（表2、図2）

イ 全窒素・全りん

環境基準が設定されている7水域（湖沼2水域・海域5水域）の環境基準達成状況は、湖沼では全窒素及び全りんともに達成した水域はなかったが、海域では全窒素がすべての水域で、全りんは4水域で達成した。

ウ 全亜鉛・ノニルフェノール・LAS

(直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩)

環境基準が設定されている66水域(河川56水域・湖沼4水域・海域6水域)の環境基準達成状況は、ノニルフェノール及びLASについてはすべての水域で環境基準を達成し、全亜鉛については湖沼及び海域ではすべての水域で、河川では56水域のうち53水域で環境基準を達成した。

表2 生活環境項目(BOD・COD)の環境基準達成状況

区分	類型	基準値 (mg/L)	指定 水域数	達成 水域数	達成率 (%)
河川 (BOD)	A	2以下	24(24)	17(17)	70.8(70.8)
	B	3以下	22(22)	16(18)	72.7(81.8)
	C	5以下	14(14)	12(11)	85.7(78.6)
	D	8以下	2(2)	2(2)	100(100)
	E	10以下	8(8)	8(8)	100(100)
	河川計	—	70(70)	55(56)	78.6(80.0)
湖沼 (COD)	A	3以下	3(3)	0(0)	0(0)
	B	5以下	1(1)	0(0)	0(0)
	湖沼計	—	4(4)	0(0)	0(0)
海域 (COD)	A	2以下	2(2)	0(0)	0(0)
	B	3以下	4(4)	0(0)	0(0)
	C	8以下	5(5)	5(5)	100(100)
	海域計	—	11(11)	5(5)	45.5(45.5)
合計	—	—	85(85)	60(61)	70.6(71.8)

(注) ()内は前年度。

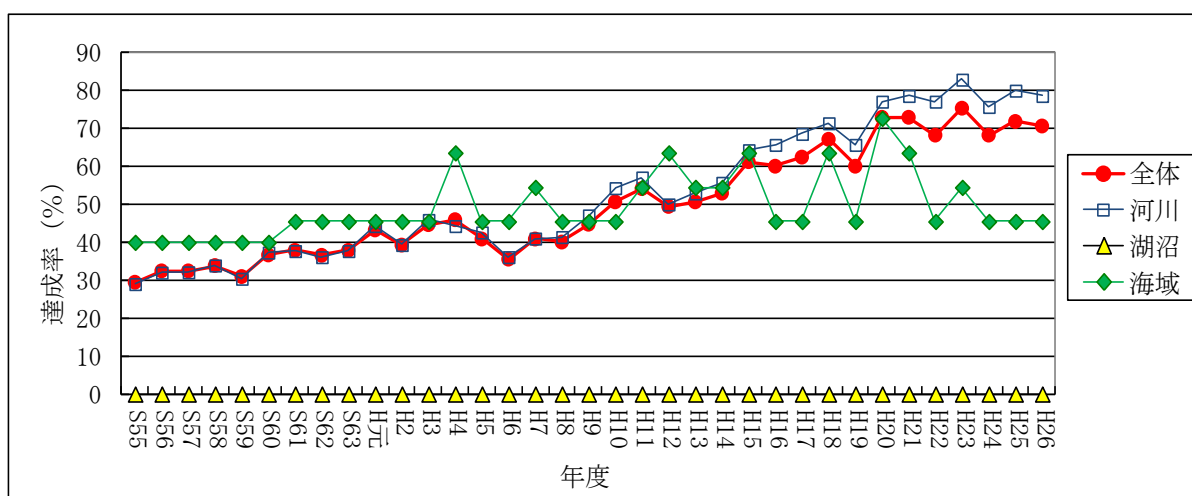


図2 環境基準達成率の推移(BOD、COD)

2 水質及び底質の現況

(1) 水質調査

ア 河川

(ア) 江戸川

上流、中流、下流（1）、下流（2）の4水域9地点で調査を実施しており、平成26年度のBOD年平均值は、0.8～2.0mg/Lであった。

主要地点においては、年度により若干の変動があるもののここ数年良化傾向にある。（図3-1）

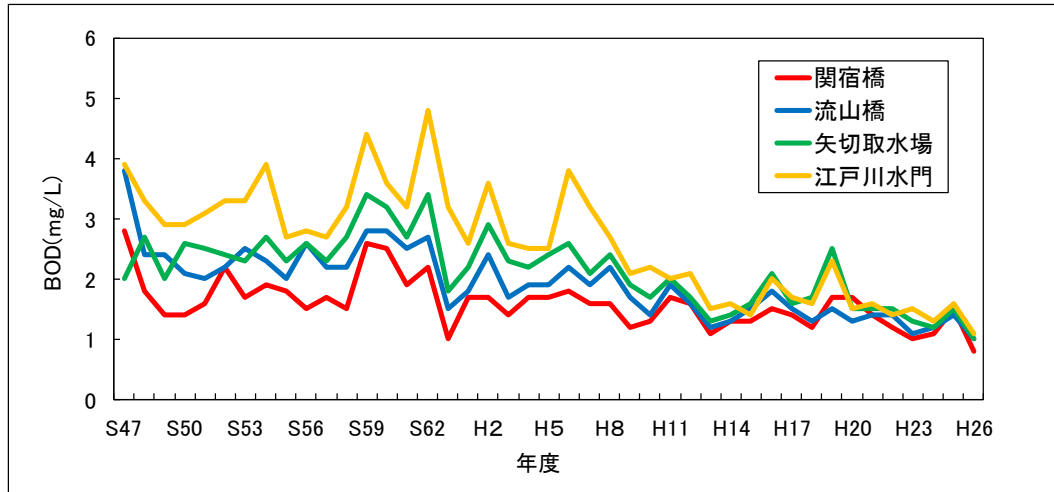


図3-1 江戸川の主要地点の水質経年変化（BOD年平均值）

(イ) 利根川

江戸川分岐点から下流の8地点で調査を実施しており、平成26年度のBOD年平均值が、1.2～2.2mg/Lであった。

主要地点においては、年度による変動はあるものの、ここ数年概ね横ばいの状況である。（図3-2）

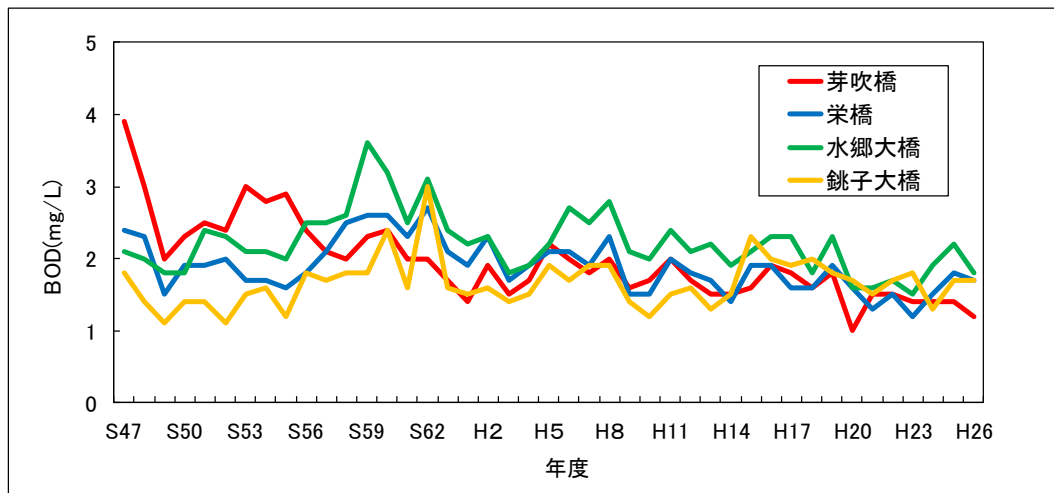


図3-2 利根川の主要地点の水質経年変化（BOD年平均值）

(ウ) 県内主要河川

平成26年度の県内主要河川のBOD年平均值は、1.4 mg/L～2.3 mg/L、となっており、黒部川は前年度と比較して改善しており、他の河川はここ数年概ね横ばいの状況にある。(図3-3)

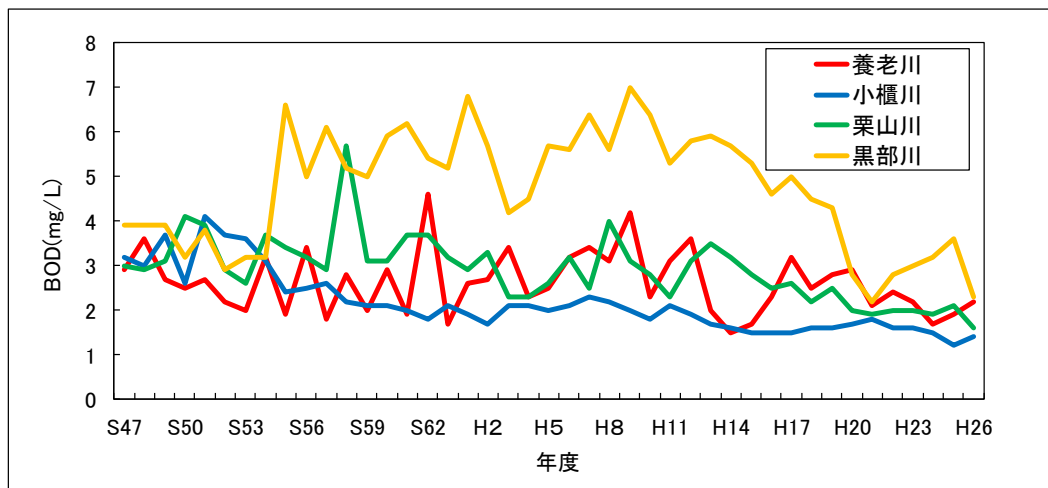


図3-3 県内主要河川の水質経年変化 (BOD年平均值)

(エ) 主要都市河川

流域の人口密度が高い県北西部などの都市域を流れる河川のBOD年平均值は、平成15年頃までは改善傾向にあり、以降は横ばいの傾向にある。

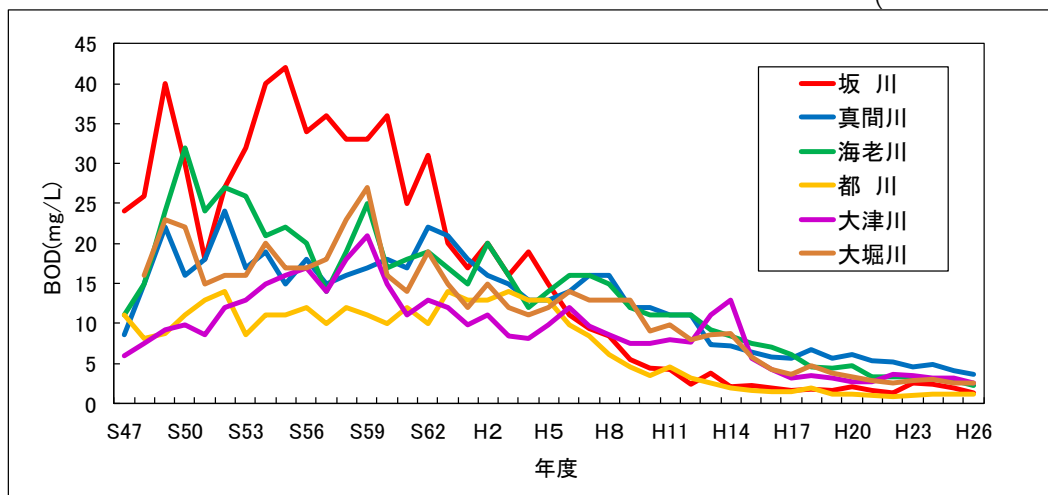


図3-4 県内主要都市河川の水質経年変化 (BOD年平均值)

イ 湖沼

印旛沼、手賀沼、高滝ダム、亀山ダムの4水域、15地点で調査を実施している。手賀沼は26年度のCOD年平均值が7.6 mg/Lとなり、測定開始以来、最も良好なものとなった。一方、印旛沼はここ数年ほぼ横ばいの状況にある。(図3-5)

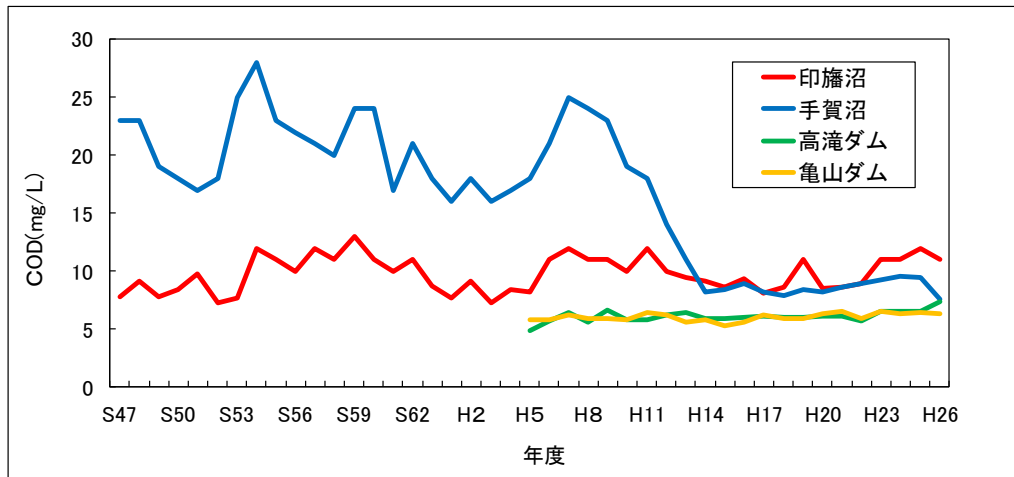


図 3-5 県内湖沼の水質経年変化 (COD 年平均値)

ウ 海域

内湾水域、内房水域、南房総水域及び九十九里水域の計 42 地点で調査を実施している。気候状況等により、変動は見られるが、COD 年平均値は概ね横ばい状況にある。(図 3-6、3-7)

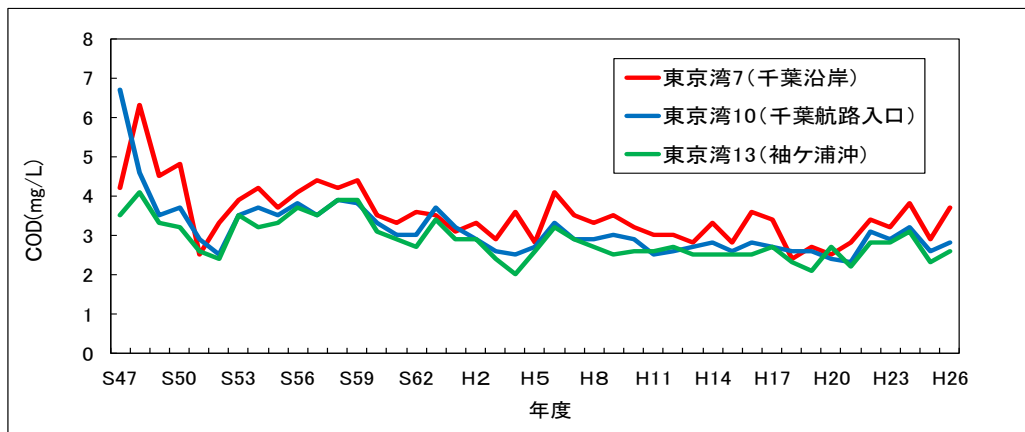


図 3-6 東京湾内湾の水質経年変化 (COD 年平均値)

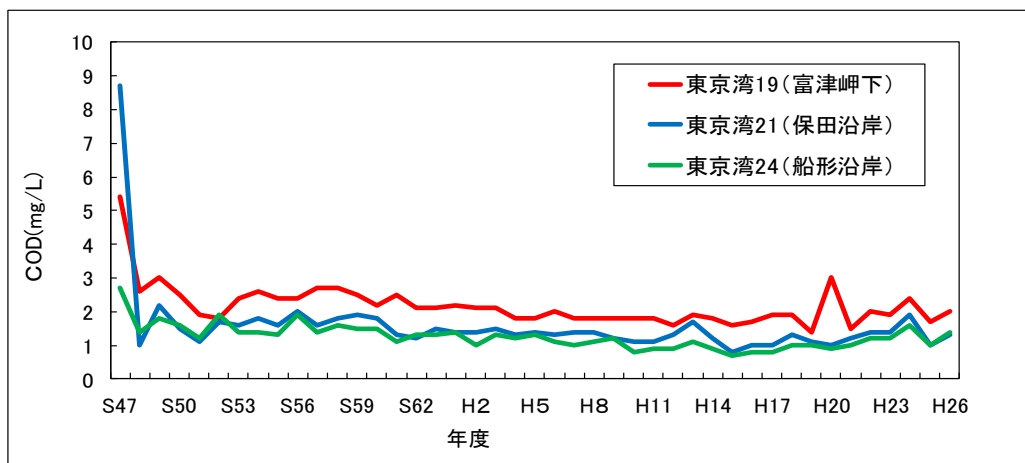


図 3-7 東京湾内房の水質経年変化 (COD 年平均値)